

<研究名称>

ICUに勤務する卓越した看護師の「わざ」共有から得られた意識の変化

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 村椿礼奈

所属 ICU・CCU

職名 看護師

実施責任者 三上淳子

所属 ICU・CCU

職名 看護師長

<研究期間>

2021年5月～2022年3月まで行う予定

<診療・研究の目的>

近年、ICUでは救急医療体制の充実や医療機器の進化をはじめとした高度先進化に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一層緊迫した集中治療管理が必要となっている。そのため、ICUで働く看護師には専門性を踏まえたより質の高い看護実践能力が求められている。

当院ICUでは、看護実践能力向上のためデスカンファレンスやリフレクションを実施し経験の共有を図っている。さらに多職種をまじえた症例・薬剤・退院支援・リハビリカンファレンスを行い多角的な意見を取り入れ、合併症予防、早期回復に向けた取り組みを行っている。

看護師個々に関しては、集中治療領域での経験が浅い看護師を優先して患者担当としており、経験に左右されずアセスメントに繋がられるよう、患者の情報収集項目を統一したチェックリストを使用している。看護が継続されるよう処置内容などを詳細に記録し、時間を費やしていることから役割を分業化し、受け持ち以外の看護師が処置や家族対応を担うことが多い。さらに、新型コロナウイルスに感染した重症患者は個室隔離が必要となり、感染予防の観点から関わる人数を制限しているため、卓越した看護師の看護実践を見る機会が少ない環境となっている。業務の改善を目的として記録を簡素化し、引き継ぎ時間の短縮を図っているため、看護師の思考、判断、関わりといった行動の意味についての理解が得られづらくなっている。

看護師は、患者・家族と様々な状況で関わり積み重ねてきた多くのノウハウ（以下、『わざ』と表現する）により、看護実践能力を洗練させていく。川名（2016）は「わざ」の伝達過程において、同僚との自由な対話による知識の共有と自分の実践とを繰り返す中に「技」の伝達過程が存在し、互いを認め合う相互行為を通じて「技」は創造、拡大、交換されると述べている。

そこで、卓越した経験や身体感覚、積み重ねてきた看護の「わざ」を知ることができれば、各々の意識の変化に繋がり、看護実践能力の向上に繋がるのではないかと考えた。

今回、看護の「わざ」の共有会を行うことで、卓越した看護師の思考や行動の意味を聞いた ICU の看護師の意識にどのように影響を与えたのかを明らかにする。

<実施内容（方法）>

データ収集方法

- 1) 研究対象者に対して事前に「わざ」の定義を文章で説明し、「わざ」の発表を聞いた場面を想起してもらった。
- 2) インタビューガイドに基づいた半構成的面接により、「わざ」をもつ看護師の実践を知ることによって自分の看護観や倫理観に影響したと考えられる事柄を語ってもらい、データを得る。
- 3) 面接日時は、研究協力者の都合に配慮し調節する
- 4) 面接場所は、プライバシーが保護できる場所とする
- 5) 面接時間は、概ね 60 分程度とする
- 6) インタビュー内容は、研究者協力者の承諾を得て IC レコーダーに録音する。録音の承諾が得られない場合は、記述することの許可を得て記録する

<危険性（副作用）等>

無し

<倫理上問題になると考えられる事項>

・旭川赤十字病院倫理委員会の審査を受ける。承認後、所属部署の所属長から選定された1年目以上の看護師に、研究者より研究参加の依頼を行う。その際、以下の内容について文書と口頭で説明をする

- 1) 研究の主旨及び研究方法、面接時間、場所を伝える
- 2) 研究参加は自由意志である
- 3) 研究参加に同意した場合でも、同意撤回書の提出により研究参加の撤回ができる。ただし、メンバーチェック終了後は、分析を行うため撤回できない
- 4) インタビューを実施時に回答したくない内容については、回答を拒否できる
- 5) 参加拒否や撤回により、不利益を被ることはない
- 6) 面会はプライバシーを保護できる個室で実施する
- 7) 個人が特定されないよう、得られたデータは匿名化し、情報を保護する
- 8) 得られたデータは、研究終了後10年間、鍵のかかる場所に保管する。その後、全てを消去し、用紙は細断処理を行う
- 9) 研究成果は、研究協力者の匿名性を確保した上で学会発表、学会誌への投稿を行う

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院

ICU・CCU 村椿 礼奈

TEL 0166-22-8111

FAX 0166-24-4648